



(社)日本建築家協会 沖縄支部 幹事
伊良波 朝義 術義空間設計工房

憧れのスペインへの旅

オラ！（こんにちは）、
昨年11月下旬に建築士仲
間10数名で憧れのスペイ
ンを旅してきた。首都マ
ドリッドを皮切りに、古
都トレドやアンタルシア

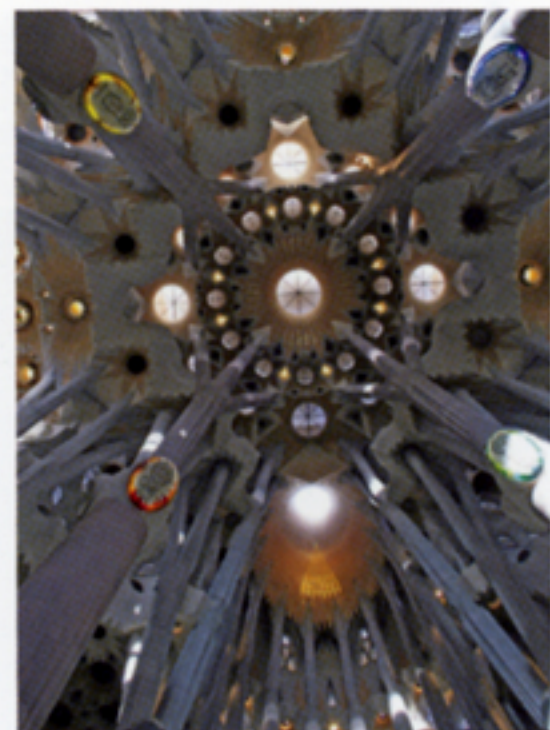
地方のコルドバ、フラメ
ンコで有名なグラナダ、
スペイン第
3の都市バ
レンシアな
どの世界遺
産を中心に
巡り、旅の
最大の目的
地であるカ
タルーニャ
地方のバル
セロナへ。
バルセロ
ナには、ガ
ウディが手
がけた建物
が数多くあ
り、ゲエル
公園やカサ
・ミラ、カ
サ・パトリ
ヨ、ゲエル
邸、カサ・
ピセンスな
ど6件が世
界遺産に登録されている。
ガウディが生涯を捧げ、

ガウディ建築が伝えたいこと



誕生の門側ファサード

今なお未完の聖堂サグレ
ダ・ファミリアは、この
旅のクライマックスに相
応しく、偶然にも20日前
にローマ法王ベネディク
ト16世によって正式に教
会と認定する聖別のミサ
が執り行われた直後であっ
た。1882年に着工し
たが、聖堂内部が完成し
ていなかったため、これ
まで教会として認定され
ていなかった。高鳴る鼓
動を抑えつつ、3つの門
のうちガウディが存命中
に唯一完成した「誕生の
門」から入場することに。
内部は、樹木のような柱
が林立し、森の中にいる
ような空間に圧倒され、
上部に近づくとつれて枝
分かれし、柱が自ら成長
していくような表情に感
動した。また、色鮮やか
なステンドグラスは、白
で統一された内部に彩り
を添え、刻々と変化する
様は、まるで生き物のよ



聖堂見上げ(穏やかな自然光が降り注ぐ)

うにも見える。
伸びやかで、穏やかで、
かつダイナミックなスケー
ルに、これまで体験した
ことのない、建築の意思、
精神性を感じた。
現在も約17、000

m²の敷地内では、ガウディ
が残した設計図や模型を
元に建設が続けられてい
るが、入館料やグッズ販
売、寄付金などにより建
設が急ピッチで進められ、
完成まで200年は掛か
ると言われた計画も、50
年程短縮されるとい
う。ガウディが携わった時代
の建築と現在建設中の建
築ではおもむきが明らか
に違っている。経済原理
にとらわれず、じっくり
と時間をかけ、いつまで
もバルセロナのシンボル
として人々に感動を与え
続けて欲しいと願うのは
私だけだろうか。

(※掲載写真は著者提供)